

対話からの前進

～藤本悦志安芸高田市長にインタビュー～

Q:藤本市長あけましておめでとうございます。まず後援会員の皆様にご挨拶をお願いします。**【市長】**⇒皆様、新年明けましておめでとうございます。早いもので市長に就任をさせていただいてから半年が経過しました。対話からの前進というのは常に心がけ、市民の皆様の為に、一緒に持続可能な安芸高田市の実現に向け頑張っています。

本年もよろしくお願いいたします。

Q:早速ですが半年を終えられて率直なご感想。そして自己評価いかがですか？

【市長】⇒本当に違う世界に飛び込んだんでね、色々と不安もあったんですけども、市民の皆さん、あるいは職員の皆さんにしっかり支えてもらいながら1日1日を進んできました。毎日本当に楽しく前向きな気持ちで仕事をさせてもらっています。

Q:藤本市長は対話からの前進而いうことをスローガンとして掲げて歩いてきておられるというか、今も前に進んでおられると思うんですけども、市長がお考えになっている対話というのはどういうものなんでしょうか？

【市長】⇒やっぱり行政というのは市民と心と心が通じる、そういうふうにはやらないといけないと思うんですよ。私は対話をする中でお互いが分かりあえたり、直接会うことによって「見方が変わった」という声もたくさん頂いたので、やっぱり今後も多くの市民の皆さんにお会いして直接対話する機会を増やしていきたいと思います。そういう考えの中で対話というのは色々な形があると思うんですが、私や執行部の考えるやり方ではありますが、中学校統合についての対話集会も行いました。そして今後は、テーマ別に地域懇談会のような、行政区あるいは振興会単位、何人かが集まったグループなどであらかじめテーマを決めて頂き、日程さえ合えば喜んでお伺いし話をしたいと思います。

Q:なるほど。「楽しくって」いうお話がありましたけれども、逆に「しんどかったな」と思うようなことがあればお話しください。

【市長】⇒悩むほどしんどいと思ったことはないですね。私は職員とはコミュニケーションをとるように冗談も言い、その中でも自然なやり取りをしながら、すると職員の皆さんが僕がこの辺は分かってないだろうなというのを察知して、丁寧に教えてくれるので助かっています。

Q:市長は対話によって前進をしたいと考えられて、半年過ぎて来られたわけですが、市長に就任される前から議会と執行部の会話が成り立たない、対話が成り立っていないというのは、市民の皆さんが非常に懸念されてるところだったと思います。では、議会との対話は進んでいますか？

【市長】⇒一般質問が増えたんですよ。私が市長に就任して9月議会12月議会では、16人中13人かな、質問をされました。一般質問が増えたということは、議会との対話が活発化していくことにつながるのではないのでしょうか。全員協議会への出席要請にもしっかり応えていくつもりです。議会と市長は立場は違えど「安芸高田市の為」という最終的に目指すところは一緒ですから。

Q:「市役所が明るくなったね」「職員が伸びやかな感じになった」という声を聞くんですが、職員さんとの対話はどうですか？

【市長】⇒職員にはなるべく積極的に声をかけています。例えば市長室にもトイレはあるんですが、そこは使わずに職員や市民の方が使うトイレを使っています。そこで職員と会えば声をかけコミュニケーションをとるようにしています。

Q:例えば「開庁時間をもとに戻すことはなかなか難しい」と記者会見で言われていたんですが、電話対応の時間をもとに戻されましたよね。職員さんと積極的にコミュニケーションをとってきたことが影響をもたらしましたか？

【市長】⇒開庁時間の変更は職員の提案から始まった政策でもあるし、そこは時間をかけてやるとして、ひとまず電話対応については、8時半から電話が鳴る中、出ずに仕事をしているという状態があるわけです。一方市民の方も日中は仕事なのでその時間しか電話出来ないということもあると思うんです。職員はその間、ずっと電話を取れないという状況ではないので、そこはもう市民サービスということで、そういう話を関係職員に具体的にしていきました。その結果、理解を得られたから電話対応については、もとに戻して時間を早くすることが出来ました。

Q:職員さんとの積極的なコミュニケーションの成果が出ましたね。市役所の会議でも対話が盛んですか。

【市長】⇒はい。しっかり議論しています。私は、日頃から職員が話しやすい雰囲気を作りたい、かたい雰囲気にはしたくないなと思っています。理詰めでなく、まず思いを受容しやわらかい言葉でやり取りしたいんです。そうすることで職員からも斬新なアイデアが出てきたり、思わぬ本音が聞けたりします。

Q:中学校統合の「対話集会」を実行されましたが、その中で感じたことは？

【市長】⇒市民の皆さんは、財政が厳しいのはすごく感じておられますよ。だから「無駄な統合はするな」というのはどの会場からも出ました。要は生徒数が減り続けていくことは分かっているのに、今、過剰な投資をする必要があるのかと。今一校に統合しても10年後には4割くらい教室が余りますから。財政の問題が皆さんの中に定着しているというのはすごく感じました。

Q:なるほど。これから中学生との対話もされるそうですが、そのねらいは？

【市長】⇒今は大人での都合、大人目線での議論じゃないですか。当事者である中学生がどう思っているかという視点も必要です。自分らから見て後輩がどういう中学校で学ん欲しいのかなどの意見が聞くことが出来ればと思っています。

Q:最後に2025年に向けて課題を挙げてもらえますか？

【市長】⇒まず財政の問題です。

公共施設削減も避けて通れない問題です。現在、市の新たな総合計画を策定中です。その中には、私のマニフェストを取り入れて具体的に事業をどう展開するか検討中です。優先順位をつける必要があります。

2番目は、未来への投資です。

まずは、中学校の統合です。今後中学校の生徒との対話集会もありますので、そこで現役の生徒の意見も聞き、また昨年行った対話集会での市民の皆さんの意見も踏まえて検討していきたいと思います。

さらには、吉田町の認定こども園の件です。

この件についても、中学校の統合と同様に、対話集会を開いて市民の皆さんの意見を聞き、さらに既設の私立の保育所の方々の意見も取り入れながら、一番重要だと思われる認定こども園の場所等について、こどもたちの安全を最優先させスピード感をもって取り組みます。

3番目としては、高齢者の介護予防です。

高齢者向けの体操教室の回数や各種教室への参加者を縮小したことは、少なからず高齢者の医療費が高騰したことにつながったのではないかと考えています。個人の健康は全て自己責任でやってくださいというのではなく、高齢者の医療費を減らす為にも、行政が高齢者が健康を維持していく為のきっかけを作り、お手伝いをしていく必要があると思います。もちろん昔のように財政が潤っているわけではないですから、全てを市の方でやることは出来ませんが、やはり自助努力だけでなく、公助共助という考えは大切だと考えます。

4番目は地域振興です。

これまでの地域振興のやり方だけでは限界がある地域も出てきています。その為にも、地域振興の新たな仕組みを作り、金銭的な面だけでなく人的支援などできないかなど検討していきます。

市長、本日はインタビューに答えて頂き、ありがとうございました。